

第9回 第2次瀬戸市教育アクションプラン推進会議  
議事録

---

日 時：令和元年6月4日（火）午後3時から午後4時40分まで

場 所：瀬戸市役所4階大会議室

出席者：

<会長>吉田 淳

<副会長>福田 直美

<委員>一尾 茂正、黒田 陽子、中島 なぎさ、長田 高代、西原 勇、羽間 弘美、  
福岡 明、水谷 友里、三谷 健美、山田 芳人、和佐田 強

(50音順)

<オブザーバー>田口 浩一（スポーツ課長）、上田 喜久（社会福祉課長）、磯村 玲子（こども未来課長）

<事務局>横山 彰（教育長）、林 敏彦（教育部長）、原 充弘（教育政策課主幹）、  
此下 明雄（学校教育課長）、吉村 きみ（図書館長）、深谷 大輔（教育政策課専門員兼指導主事）、幸村 弘美（教育政策課企画係長）、桐山 優衣（教育政策課主事）

議事録：

---

1 新任委員の紹介

教育政策課主幹より、資料1に基づき7名の新任委員を紹介。

2 (1)会長の互選について

事務局：昨年度まで会長を務めていただいた、上川会長が、にじの丘学園の地域コーディネーターとしてご尽力いただくことにより、会長職をご辞退されたので、報告させていただきます。これに伴い、『瀬戸市教育アクションプラン推進会議設置要綱、第2条第2項』に基づき、委員の互選により会長を定めたいと存じる。立候補または委員からの推薦となっているが、どなたか立候補や推薦を頂きたいと思うがいかがか。

委 員：昨年度まで、副会長を務めていただいた吉田さんはいかがか。

事務局：ただいま吉田さんのお名前が挙がりましたが、他にどなたかいらっしゃるか。お声がないようなので、拍手にて決定させていただきたい。吉田さんを会長としてよろしい方、拍手をお願いします。

(拍手多数)

吉田委員、会長をお願いしてもよろしいか。

吉田委員：承ります。

事務局：それでは、会長に就任されたということで、ご挨拶をお願いします。

会 長：これまで3年間、副会長として務めさせていただいた。瀬戸市の教育をよりよくしていくということをこの会議の目標としているが、実りある会議となるように、みなさまからもご意見をいただくことが大切であると考え、積極的にご意見をいただきたい。

## (2)副会長の任命について

事務局：吉田委員が会長になられたということで、副会長が不在となった。『瀬戸市教育アクションプラン推進会議設置要綱、第2条第3項』に基づき、副会長は委員の中から会長が任命することになっている。吉田会長、どなたかの任命をお願いします。

会 長：この会議の委員は男女比が半々であり、これまでこの会議は男性と女性で会長・副会長を担ってきている。今回もそれにならい、女性委員からお願いしたいと思っている。そこで、福田委員にお願いしたいが、いかがか。

福田委員：承ります。

事務局：それでは、副会長に就任されたということで、ご挨拶をお願いします。

副会長：みなさまのご意見などを承りながら、一生懸命務めてまいりたい。

## 3 依頼事項

事務局より、「瀬戸市教育員会の活動の自己点検・評価報告書作成のための意見調査について」依頼・説明。

会 長：まずは、施策をよく読んでいただき、それに対する意見や提言をしていただきたい。

## 4 報告事項

### (1) 令和元年5月1日現在の児童生徒数について

教育政策課企画係長より、資料2、2-1に基づき説明。

### (2) 小中一貫教育プロセスシートについて

教育政策課企画係長、教育政策課主幹より、資料3に基づき説明。

### (3) カリキュラムについて

教育政策課専門員兼指導主事より、資料4に基づき説明。

委員：4月22日、市のホームページで、この教育プログラムが公開され、これまで関わってこられた方々の心意気や決意が伝わり、大変頼もしく思うとともに、瀬戸の教育の今後がとても楽しみになった。

2ページ目に『小中一貫校のモデル校を創設し』と書かれており、にじの丘学園が瀬戸のモデル校として位置づけられていることが分るとともに、この教育プログラムを全市的に公開する意義があると感じた。しかし、『小中一貫校のモデル』としてしまうと、誤解が生じてしまうため、『小中一貫教育のモデル』の方が市教委の想いと合うのにと思っていた。すると、5月1日号の広報せとの中では、『にじの丘学園をモデル校として、小中一貫教育を推進していきます』との文章とともに、各中学校ブロックでの小中一貫教育に関わる取組が紹介されており、全市のことを常に考えている市教委の姿勢がとてもよく分かり、素晴らしいと感じた。

この教育プログラムを読んだだけでは先ほどのように誤解が生じてしまう恐れのある文言がいくつかあり、懸念している。例えば、「答えを教える『ティーチング』から答えを引き出す『コーチング』へ」や、「にじの丘学園の国際教育」の文言のすぐ下に、「外国語活動、外国語科の取組」について記載されているため、二つの取組を市教委がイコールと捉えているように読み取れてしまうことなどである。誤解が生まれないように、市民に発信する時に、市民にきちっと伝わるような工夫をしていただきたい。

最後をお願いであるが、にじの丘学園をモデルとして、瀬戸の小中一貫教育を推進することに大賛成である。ただ、「モデル」を示す方、示された方、それぞれの「モデル」に近づこうとする努力が、そこからはみ出す豊かな例外や多様性を排除するのではなく、これらを保障し、豊かで創造的な発想を生み出す源となることを心から願っている。

委員：現在自分の子どもが瀬戸市の小学校に通っているが、それぞれの先生の努力で学校が運営されていることを実感しており、とても感謝をしている。にじの丘学園の教育プログラムを拝見したが、今も取り組まれている内容が多いと感じたが、わざわざプログラムを作成するということは、現在できていないのかとも思った。

また、にじの丘学園がモデル校であるならば、にじの丘学園に配属される教員は特別であるのか。また、『多くの教職員が長きに渡って関わる』という文言が書かれているが、教職員の異動が少ないということか。

にじの丘学園は同じ瀬戸市の公立の学校であるが、どこが特別で、どこが同じなのかが知りたい。

事務局：このにじの丘学園の教育プログラムが全て真新しいものかという、そう

いうわけではない。1番のポイントは、『切れ目のない小中一貫教育の展開』である。これは瀬戸の全ての学校で課題として挙げられることである。今まで、小学校は小学校、中学校は中学校で完結している部分があった。例えば、中学校で職場体験をして職業観を養うが、その中学校は同じブロックの小学校がこれまでどのような職業観の養い方をしてきたのかということ、把握してきていないということがあった。小学校の教員が中学校でどのような教育をされているのか、中学校の教員が小学校でどのような教育をされてきたのか、ということを知らないというのが現状の課題として挙げられる。現在瀬戸市の様々な教員の会議の中で、『小学校と中学校を繋ぐ上で、無駄なギャップはあるか』という検討をしていただいた。教科としての繋がり、無駄なギャップはほぼ全ての教科でないが、それぞれの教員が教え方を知らないことにギャップ、課題があるという回答であった。

にじの丘学園の教員が特別な指導を受けるのかということ、そういうわけではない。小中一貫教育は瀬戸市全体で行っていくものであるため、にじの丘学園では施設一体型、他の学校では施設分離型で、形態は異なるものの、教育の内容自体は変わらないため、にじの丘学園だけ特別なものということではない。

今までも、キャリア教育、地域教育等それぞれの学校で実践してきたが、それを1年生から9年生まで見通して行うことが新しいことと考えていただけると良い。

にじの丘学園も、他校と同じように教職員の異動はあるが、1年生から9年生までの教員が見守ることになるため、誰か知っている教員が見守っていることになるということが、にじの丘学園では可能であると思っている。

会長：学習指導要領が改訂されることになるが、文部科学省が一環して求めているものは、『主体的、対話的な深い学び』である。にじの丘学園をモデル校として、各学校が切れ目のない小中一貫教育を通して、主体的で対話的な深い学びを実施していこうという、転換期であるということを感じている。にじの丘学園を中心として新しいチャレンジをしていただき、模範となるような教育のあり方や指導のあり方、評価のあり方とともに教員の研修も含めた充実した教育がなされないと、成功しないと感じる。

全国には様々な小中一貫校があるが、一貫校と付けているが、小学校と中学校の壁があるところも多々存在する。そのため、5、6、7年生の乗り入れ授業は大きな意味がある。また、小学校5、6年生の教科の内容については、非常に高度になってきているため、小学校の教員だけでは対応しきれない部分もあるため、中学校の教員の力を借りながら、専門性の高い教

育を実施していくということも、文部科学省は提言をしている。中学校の教員が過剰負担になってしまうことが予想されるため、今後具体的に学級形態などを検討することが必要になってくる。ただし、教員配置については基準の配置数があるため、市教委との連携の中で解消をお願いしたい。

委員：教育プログラムを拝見して、先生方がこれを実践するのは大変そうで負担が大きそうだという印象があるため、先生方も楽しく授業ができるように、市教委からもサポートをしていただきたい。また、『基礎基本の定着を保証する』という文言についてだが、基礎基本となるの具体的な項目の基準は現段階であるか。

事務局：基礎基本については、今後も議論を重ねていかなければならない点だと思っている。新学習指導要領では観点が変わり、知識技能、思考判断表現、学びに向かう力の3観点が新しい学力として定義されている。この基礎基本というのは、その観点の中の知識技能にあたる場所であると考えている。そのため、学習指導要領に定められている知識技能を習得させることが教員としての責務ではないかと考えている。

委員：小中一貫校となるため、配置される教員は、小学校と中学校両方の免許を持っていなければならないのか。開校された時ににじの丘学園の教員は全員変わってしまうのか、それとも現在の7校の教員が残ることになるのかいかがか。また、地域未来塾について、既に準備がなされているのか。

事務局：小中一貫校ではあるが、正式には瀬戸市立にじの丘小学校、瀬戸市立にじの丘中学校を含めてにじの丘学園と呼んでいる。そのため、にじの丘小学校で勤務する教員については小学校免許が必要になるし、にじの丘中学校で勤務する教員については中学校免許が必要になるため、小中両方の免許を持っていないと勤務できないというわけではない。小学校にて中学校教員が乗り入れ授業等を行う際について、主たる授業者（中学校教員）が一人で授業を実施する際には、その小学校免許が必要となるが、その際に小学校の教員がいる場合には、中学校の教員免許だけ持っている場合でも授業を実施することが認められている。そのため、全ての教員が小中両方の免許を有していないと学校が成り立たないというわけではない。また、他にも中学校の授業に小学校の教員がT2として入る場合などでも、その小学校教員は中学校の教員免許を有していなくても可能である。

教員配置については、まだ決まっていないところであるが、全ての教員が開校とともに入れ替わってしまうということは、子どもたちにとって負担が大きいかと考えている。

地域未来塾について、まだ全て決定しているわけではないが、現在光陵中

学校にて地域未来塾が行われているが、その形を目指して準備をしているところである。

委員：にじの丘学園になることで、通学区域が広がることになるが、現段階でどのような通学手段を検討されているか教えていただきたい。

事務局：徒歩通学を原則としているが、通学区域が広がることから、路線バスの活用を検討している。バス通学での安全対策としては、乗降場所の整備や見守り体制の構築などをしていきたいと考えている。徒歩通学での安全対策としては、2年前から国や県、警察、地域の方とともに通学路の安全点検を実施しており、改善できる危険箇所については整備をしているところである。通学路の安全対策については、にじの丘学園だけでなく、他地区の通学路についても、同じように点検を行いながら、改善可能な箇所については、整備を進めていきたい。

委員：見守りのボランティア等は集まりにくいかもしれないが、できるだけ多くの大人の目で見守ることができるような体制づくりをしていただきたい。

#### 4 その他

委員：通学の安全ということで、現在も各校で通学の安全指導をしていただいているし、家庭でも安全指導はしているが、最近痛ましいニュースが後を絶たないため、今以上に定期的な安全指導を学校でも行っていただきたい。

事務局：登下校における安全指導は現在も実施しているところであるが、今後も定期的に実施をしていきたい。

委員：「地域とともにある学校づくり」という観点で、地域総がかりで学校の子ども達を育てていくということを行わなければいけないと感じている。ほとんどの学校で地域の方々が見守り活動を行っている。小中一貫校の地域の方々も、同様にどのように見守り活動をすることが良いかと考えているはずである。今年1年間かけて、地域の方々と学校と同じ教育目標を共有し、コミュニティスクールの体制を構築し、地域総がかりで学校をサポートする仕組みづくりができればと思う。

委員：多様な意見を聞く中で、現場の教員の立場として皆さんの期待や心配の気持ちひしひしと伝わった。学校内で、現職教育を行っているが、にじの丘学園に行ったときに、目の前の子ども達に何が必要であるか、どういう風に育っていくと子ども達は幸せであるのか、ということ等を考えている。この場でのご意見なども参考にしながら、現場の教員として努めていきたい。

委員：瀬戸市の不登校の子ども達の人数は、ここ数年で増加している。にじの丘

学園の開校によって、不登校が少しでも少なくなるように、他校にも良い影響をもたらすことを期待している。

委員：瀬戸は今まで各校独自の取組を実施してきており、小中一貫教育という取組もその中の一つではないかと感じている。にじの丘学園で実施される教育を施設分離型の学校でも取り入れることができないかという視点で物事を考えると、ここ数年でも学校の様子は変わってくる。にじの丘学園に引張られる形で、他の学校も変わっていくと良いと考えている。

委員：にじの丘だよりで制服が決定していく過程を拝見したが、LGBTや弱い立場の方々にも配慮をされている点にとっても感動した。

現代の子ども達はSNSに慣れ親しんでいるため、電話をかけることを怖いと感じている子ども達も多いと耳にした。ICTを駆使した授業を展開するとのことであるが、ICTの使い方についても、積極的に指導していただきたい。また、近年は公園で遊ぶ子ども達も減ってきているため、学校の中で積極的に体を動かすことができる環境も整えていただき、子ども達の中に健康づくりの大切さが根付くことを願っている。

委員：にじの丘学園では、本に触れ合うことができるといえるような環境づくりをしていただきたい。この他にも、様々なこんな学校になるといいなという声があると思うが、色々な面で取り入れていただくと良いと感じた。

・事務局より連絡事項

次回日程は、7月31日（水）午後3時から4階大会議室にて開催予定